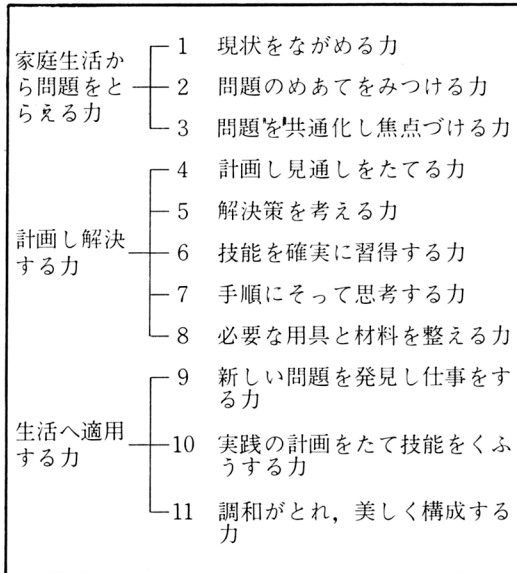


## Ⅳ 研究の実際

### 1 家庭科の学習能力

子どもが学習する際に働く能力とは、どんなものであろうか。家庭科の授業では、一応下記の能力があげられよう。

——家庭科における要素能力の構造——



家庭科の題材で学習する場合、上記のいずれかの能力が習得されるとみてよかろう。その場合、ある題材に対して働いた前提能力が、どの部分で、どのように働いたかを測定できれば漠然としてとらえられていた学習能力が、相当具体性をおびその題材の与え方とか、子どもの思考の筋道とつまずきがいくらかでも明らかになれば、子どもサイドを重視した授業の研究が、一歩前進になるだろう。そこで具体的な題材で、学習能力の発達面にスポットをあてて研究していくことにする。

### 2 前提能力調査作成の視点

前提能力調査問題の作成については、家庭科の4領域中、被服10項目、食物2項目、すまい2項目、家庭1項目の計・15項目について試みた。学年は、5・6学年を考え、基本要素の主たるものをあげた。さらに5年、6年とも同問題で実施した。時期は、

9月上旬とし、ほとんど末習教材と考えたが、一部に進度の関係を考慮し、一部を既習問題とした。

——家庭科の領域と要素項目——

領域	項目	目
被服	1 布地 2 寸法のとり方 3 形状 4 裁縫用具の使用(指ぬき・針) 5 待ち針のうち方 6 ぬい方(なみぬい・半返し・本返し) 7 洗たく	【10】
食物	1 台所の配置 2 調理法	【2】
すまい	1 清掃 2 照明	【2】
家庭	1 来客の接待	【1】

【 】は領域の計

### 3 被服領域に関する調査問題

調査は、5年A・B小学校、6年C・D小学校の70名、77名について実施した。5年生は家庭科をはじめ履習するので、末習教材が多い。6年生は、学年が進むにつれて、①5年と比べどのように変化するのだろうか。②調査問題の理由を書かせることから思考のプロセスが眺められるかも知れないということ予想し、調査を試みた。

以下、その問題について概略を述べることにする。

〈調査問題1〉

1 さいほうばこをいれるふくろをつくりたいのです。はかった寸法をもとにどのくらいの布が必要か。1～5のなかからえらびなさい。

【A たてまわり52cm B よこまわり38cm】

